

## 「企業のためのSDG行動リスト ver.1」

### ご活用ガイド

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボでは、企業や自治体といったステークホルダーと研究者とのコラボレーションによるSDGs目標達成へむけた優良事例創出のしくみとして、2018年6月にxSDGコンソーシアムを設立しました。xSDGコンソーシアムでの議論から、企業におけるSDGs目標達成のための行動を促進するために、「企業におけるSDGs目標達成のための行動とは何か」を明らかにする必要があることがわかりました。また、SDGs目標達成のための行動を明らかにすることは、企業の行動を評価する金融機関や投資家の判断基準を提供することにもつながります。

こうして、2018年度から2019年度にかけて、xSDGコンソーシアム「金融アセスメントプラットフォーム分科会」では、企業におけるSDGs目標達成のための行動についての議論を進めてきました。その議論の結果を、「企業のためのSDG行動リスト ver.1」（以下、「SDG行動リスト」）として、「SDGs目標達成に貢献する企業行動（以下、「SDG行動」）」と「具体的行動の例」を整理しました。

この「SDG行動リスト」をもとに企業行動と金融セクターとの協働が促進されることを大きな目標としています。

#### ■ 「SDG行動リスト」の目的

「SDG行動リスト」の目的は、SDGs目標達成のための企業行動を明らかにすることです。また、企業行動の評価のための基準を提供します。

「SDG行動リスト」の活用により、同業種・業態における各企業の位置付けが明らかになるとともに、どの部門においてどの「SDG行動」をすべきかについて、明確になり、SDGsを経営に実装し、SDGs目標達成のための行動を促すことができます。また、企業におけるSDGs推進状況の進捗確認や評価について、その可視化が期待できません。

## ■ 「SDG 行動リスト」の概要

1. 「SDG 行動」について：「SDG 行動」とは、SDGs 目標達成に貢献する企業行動です。「SDG 行動リスト」では、SDGs 目標のターゲットを対象に、該当する企業行動を検討し、「SDG 行動」として整理しました。ただし、ターゲットに該当しなくても、SDGs 目標の時点で、「SDG 行動」に反映すべき項目も含まれています。SDGs の理念から考えると、実際の行動の特定や運用は各主体で自由に行うということが重要だと考えます。その意味でも、各主体での運用の実践によるフィードバックを随時お寄せいただきたいと考えています（後述「『SDG 行動リスト』のご活用にあたって」を参照）。「SDG 行動」の特定にあたっては、「金融アセスメントプラットフォーム分科会」における議論、および文献調査により行いました。

2. 「具体的行動の例」について：「具体的行動の例」として、SDGs 目標達成への貢献を判断するための「SDG 行動」の具体例を示しています。「具体的行動の例」の提示にあたっては、次の点に留意しています。

- ・ 法令により遵守すべき行動は、例示の対象としていません。
- ・ CSR (Corporate Social Responsibility) は近年、企業の情報開示や社会貢献活動の文脈で使用される傾向にあるため、例示の対象としていません。
- ・ 原則として、企業の本業をつうじて SDGs 目標達成に貢献する企業行動を対象に、例示しています。

3. 「新訳ターゲット」について：「SDG 行動リスト」に掲載している SDGs の目標とターゲットは、「SDGs とターゲット新訳」制作委員会（委員長：蟹江憲史、副委員長：川廷昌弘）で制作した新訳です。制作委員会の詳細は、xSDG・ラボウェブサイト (<http://xsdg.jp/>) をご参照ください。

4. 「カテゴリ」について：企業の各部署が「SDG 行動」を「自分ごと化」し、取り組みやすくするために、「SDG 行動」を「労働・人権」「経営管理」「環境マネジメント」「気候行動」の4つのカテゴリに分けました。

5. 「サプライチェーン・プロセス」について：企業のSDGs目標達成への貢献を評価するために、各取引において、企業の枠を超えた透明性や情報の信頼性が求められます。「SDG 行動リスト」では、サプライチェーンの観点から「SDG 行動」の整理を行いました。特に重要なサプライチェーンのプロセスを、「調達」「物流」「生産」「販売」と定義し、「SDG 行動」を分類しています。また、全てのプロセスに共通となる「SDG 行動」は「共通」としています。

#### ■ 「SDG 行動リスト」の改訂について

「SDG 行動リスト」は、xSDG コンソーシアム「金融アセスメントプラットフォーム分科会」にご参加いただいたメンバーにより重ねられた議論をつうじて、策定されました。「ver.1」において、見落とされている事項、社会の変化に伴い新たに追加すべき事項については、今後の改訂の際、積極的に取り入れながら、「SDG 行動リスト」がさらに社会的価値を生み出すツールとなるよう、みなさまとともに、作り上げたいと考えています。多くの方々からのご意見をお待ちしています。

#### ■ 「SDG 行動リスト」のご活用にあたって

「SDG 行動リスト」は、慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボが推進する xSDG コンソーシアム「金融アセスメントプラットフォーム分科会」の研究成果として公開するものです。「SDG 行動リスト」のご活用にあたっては、下記事項へのご理解ご協力をお願いいたします。

- ・ 「SDG 行動リスト」の今後の改訂のため、ご活用後にフィードバックコメントを xSDG・ラボまでお知らせください。
- ・ 「SDG 行動リスト」を活用して、情報開示等をおこなう場合は、xSDG・ラボにその旨ご連絡いただくとともに、xSDG・ラボから「企業のための SDG 行動リスト」の提供を受けた旨の明記をお願いいたします。
- ・ 「SDG 行動リスト」の活用およびその成果は、活用する主体の責任の下でおこなっていただきます。xSDG・ラボが、評価やその結果を保証するものではありません。

#### ■ 「SDG 行動リスト」作成メンバーについて

xSDG・ラボでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間として xSDG コンソーシアム会員の呼称を「Vision Sharing Partner (VSP)」としています。「SDG 行動

リスト」は、xSDG・ラボのメンバー、アドバイザー、オブザーバー（関係省庁）のほか、Vision Sharing PartnerとしてxSDGコンソーシアムにご参加いただいた企業および自治体のみなさまとともに作成いたしました。

「SDG行動リスト」作成に参加したVision Sharing Partnerは、次のとおりです。

<p>慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ</p> <p>xSDGコンソーシアムおよび「金融アセスメントプラットフォーム分科会」</p> <p>2018-2019年度 Vision Sharing Partner、オブザーバー（カテゴリ、五十音順）</p> <p>下線：金融アセスメントプラットフォーム分科会に参加</p>
<p>* VSP-S（S会員）</p> <p><u>ESRI ジャパン株式会社</u>    <u>国際航業株式会社</u>    <u>シティグループ証券株式会社</u></p> <p><u>株式会社 TREE</u>    <u>日本航空株式会社</u>    <u>楽天株式会社</u>    <u>株式会社良品計画</u></p> <p><u>静岡市</u>    <u>豊岡市</u></p>
<p>* VSP-D（D会員）</p> <p><u>ANA ホールディングス株式会社</u>    <u>株式会社インプレス R&amp;D</u></p> <p><u>株式会社セールスフォース・ドットコム</u>    <u>株式会社大和証券グループ本社</u></p> <p><u>三井住友銀行</u></p>
<p>* VSP-G（G会員）</p> <p><u>天野エンザイム株式会社</u>    <u>株式会社 NTT データ経営研究所</u></p> <p><u>GREATWORKS 株式会社</u>    <u>株式会社コバヤシ</u>    <u>住友化学株式会社</u></p> <p><u>日本電気株式会社</u>    <u>株式会社 Mizkan Holdings</u></p>
<p>* VSP-LG（自治体会員）</p> <p><u>神奈川県</u>    <u>鎌倉市</u></p>
<p>* オブザーバー</p> <p><u>金融庁</u>、<u>内閣府地方創生推進事務局</u></p>

※ xSDGコンソーシアム「金融アセスメントプラットフォーム分科会」の立ち上げ・運営にあたっては、VSP(Vision Sharing Partner)としてご参加いただいた株式会社 TREE に、惜しみないご協力ご支援をいただきました。深く感謝し、ここに御礼申し上げます。

(お問い合わせ・ご連絡先)

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

Email: xsdg[at]sfc.keio.ac.jp